5月度　座談会

拝読御書

みょう　みつ　しょう　にん　　ご　しょう　そく

妙密上人御消息

本文

金(こがね)はやけばいよいよ色(いろ)まさり、剣(つるぎ)はとげばいよいよ利(と)くなる。法華経(ほけきょう)の功徳(くどく)は、ほむればいよいよ功徳(くどく)まさる。

二十八品(にじゅうはっぽん)は正(まさ)しきことはわずかなり、讃(ほ)むる言(ことば)こそ多(おお)く候(そうら)えと思(おぼ)しめすべし。

通解

金(きん)は、焼(や)けばいよいよ色(いろ)が良(よ)くなり、
剣(つるぎ)は研(と)げばいよいよ良(よ)く切(き)れるようになる。
(同じように)法華経(ほけきょう)の功徳(くどく)をたたえれば、ますます
功徳(くどく)は勝(まさ)っていく。
(法華経)28品(ぽん)は、法理(ほうり)の真髄(しんずい)を説(と)くところはわずか
であるが、たたえる言葉(ことば)こそ多(おお)くあることを、
心得(こころえ)ていきなさい。

拝読のポイント①

★妙法をたたえる心に無量無辺の功徳が

法華経全体が、その万人成仏の法理の功徳を、釈迦、多宝、十方の諸仏をはじめ、あらゆる衆生が口をそろえて称賛し、全人類に妙法の受持を勧めている経典であるといえます。ゆえに、この法華経の真髄である南無妙法蓮華経を称賛する心に功徳があふれると仰せなのです。

拝読のポイント②

★友へ地域へ希望の励ましを広げよう

私たちの立場から言えば、仏法対話を通して、自身が感じた信仰の歓喜、具体的な体験を語っていくことが大切です。また、広布に生きる同志を尊敬していく実践に、福徳が輝いていくのです。私たちは、宝の同志を心から尊敬し、たたえ合いながら、わが地域に希望の励ましを広げていきましょう。

宝の同志を心から尊敬し、たたえ合っていこう

まとめ

池田先生は、広宣流布のために戦う地涌の同志を最大にねぎらい、ほめ讃えていく。その「心」にこそ、御本尊の功徳(くどく)はいよいよ薫(かお)る。福徳(ふくとく)は輝(かがや)きを増していく。と教えられています。

私たちは、宝の同志(どうし)を心から尊敬(そんけい)し、たたえ合いながら、わが地域(ちいき)に希望(きぼう)の励(はげ)ましを広げていきましょう。